

経済学部A方式I日程・社会学部A方式I日程・現代福祉学部A方式

3 限 選 択 科 目 (60分)

科 目	ページ	科 目	ページ
政治・経済	2～16	日 本 史	18～34
世 界 史	36～50	地 理	52～59
数 学	60～65		

〈注意事項〉

- 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
- 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- 科目の選択は、受験しようとする科目の解答用紙を選択した時点で決定となる。一度選択した科目の変更は一切認めない。
- 数学は以下の注意事項に従うこと。
 - 解答用紙の所定欄の受験学部を○で囲むこと。
 - 解答はおもて面と裏面の所定の位置に、上下の方向に気をつけて記入すること。
 - 解答を導く途中経過も書くこと。
 - その他、解答用紙に記載された指示にしたがい解答すること(この指示どおりでない場合は採点の対象としない)。
 - 定規、コンパス、電卓の使用は認めない。
- マークシート解答方法については以下の注意事項を読みなさい。

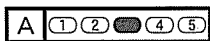
マークシート解答方法についての注意

マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどを使用しないこと)。

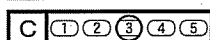
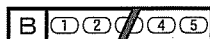
記入上の注意

- 記入例 解答を3にマークする場合。

(1) 正しいマークの例



(2) 悪いマークの例



枠外にはみださないこと。

○でかこまないこと。

- 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。
- 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。
- 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

- 問題冊子のページを切り離さないこと。

(世界史)

〔I〕 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

古代メソポタミアは、現在のイラクとほぼ重なり、その開放的な地形のため、周辺地域から多くの民族が侵入し、王国や王朝の興亡がくりかえされた。

メソポタミア南部には、前2700年頃までに 人が数多くの都市国家を形成し、また高度な文化をうんだ。しかし 人が前24世紀頃の のときに、⁽¹⁾ 人の都市国家群を征服し、最初の統一国家を建てた。だがこの王国もすぐに衰え、再び 人が王朝をたてた。この王朝が崩壊した後、前19世紀初めに 人がバビロン第1王朝をおこし、⁽²⁾ ハンムラビ王の時代に全メソポタミアを支配した。その後、現在のトルコ共和国とほぼ重なるアナトリアに、 人が前17世紀半ば頃に強大な国を形成し、前16世紀にはメソポタミアに侵入してバビロン第1王朝を滅ぼした。さらに 人はシリアに進出し、 を追放して成立したエジプトの新王国⁽³⁾とシリアをめぐるたたかあった。バビロン第1王朝滅亡後のメソポタミアには、ザグロス山脈方面から 人が侵入して南部を支配した。一方、北部は 王国によって支配され、この王国はシリアへと領土を広げたが、その後、 に服属した。このように前15から前14世紀にかけてのオリエントでは、エジプト新王国、 人の王国、 人の王朝、 王国といった諸王国が割拠する状況がうまれた。

前2千年紀初めにメソポタミア北部におこった 王国は、前7世紀前半、メソポタミアだけでなく、オリエント全体を征服した。このオリエントを初めて統一した王国の統治が前612年に崩壊すると、⁽⁴⁾ オリエントには4つの王国が分立することになった。メソポタミアを支配したのは、 人がたてた新バビロニアであり、この王国は の時代にユダ王国を滅ぼすなど、最盛期をむかえた。しかし前6世紀半ば、 人の ⁽⁵⁾ がアケメネス朝をおこし、この4王国のうち3王国を征服した。そして次の王が ⁽⁶⁾ 4王国の最後の

国を前525年に征服したことで、オリエント全体が再び統一された。オリエント統一後にその領土を最大に広げたのは、第3代の王 であり、エーゲ海北岸からインダス川にいたる領土を築いた。しかし前4世紀には、この大帝国もマケドニアのアレクサンドロスの遠征によって滅ぼされた。

問1 空欄 ～ に当てはまるもっとも適切な語句を以下の語群から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | |
|---------|---------|-------------|
| a アカイア | b アッカド | c アッシリア |
| d アムル | e アラム | f エフタル |
| g エラム | h カッシート | i カナーン |
| j カルデア | k ギリシア | l クレタ |
| m シュメール | n スキタイ | o 大月氏 |
| p バクトリア | q パルティア | r ヒクソス |
| s ヒッタイト | t フェニキア | u フルリ |
| v ヘブライ | w ペリシテ | x ペルシア(イラン) |
| y ミタンニ | z リビア | |

問2 空欄 ～ に当てはまるもっとも適切な語句を以下の語群から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | |
|------------|-------------|
| a アメンホテプ4世 | b アルダシール1世 |
| c ウルナンム | d カンビュセス2世 |
| e キュロス2世 | f ギルガメシュ |
| g サルゴン1世 | h シャープール1世 |
| i ダレイオス1世 | j ネブカドネザル2世 |
| k ホスロー1世 | l ラメス2世 |

世界史

問3 下線部(1)の文化を含めた、古代メソポタミアにおける文化の説明として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

すべて正しい場合はオを選べ。

- ア 1週7日制が開始された。
- イ 楔形文字が作られた。
- ウ 「死者の書」が記された。
- エ ジググラト(聖塔)が建設された。

問4 下線部(2)によって発布されたハンムラビ法典に関する説明として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。すべて正しい場合はオを選べ。

- ア 法典の原文が刻まれた石碑が残っている。
- イ 王は神の代理として統治するとされた。
- ウ 同害復讐の原則にたっていた。
- エ 被害者の身分によって刑罰にちがいはなかった。

問5 下線部(3)にかかわる出来事の説明として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。すべて正しい場合はオを選べ。

- ア 前16世紀に成立した。
- イ トトメス3世の時代に最大領土となった。
- ウ アマルナ美術がうみ出された。
- エ 巨大なピラミッドを盛んにつくった。

問6 下線部(4)の王国の統治についての説明として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。すべて正しい場合はオを選べ。

- ア 広大な領土を州に分けた。
- イ 各州にサトラップ(知事)をおいた。
- ウ 前8世紀より新たにニネヴェを首都とした。
- エ 征服地の住民の強制移住をおこなった。

問7 下線部(5)の統治についての説明として誤っているものを次のア～エから一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。すべて正しい場合はオを選べ。

- ア 金貨・銀貨を発行した。
- イ フェニキア人やアラム人の貿易活動を保護した。
- ウ スサからサルデイスにいたる「王の道」とよばれる国道を設けた。
- エ 街道に宿駅を設け、物資や情報を運び伝える駅伝制をしいた。

問8 下線部(6)の王国に当てはまるもっとも適切な王国名を以下の語群から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア エジプト
- イ 新バビロニア
- ウ メディア
- エ リディア

世界史

〔Ⅱ〕 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

東アジアでは、古代から長きにわたって中国を中心とする冊封体制と呼ばれる国際関係が続いてきた。この国際関係は、周辺諸国の首長が中国王朝の権威を認めて朝貢し、中国皇帝がその首長に対し官位や称号を与え支配を願う地域を領土として承認して(冊封)、従属的な君臣関係を結ぶことで成立する。こうした冊封体制を支える、儒教などによって体系化された世界認識は、万物が生育し、万民が生活する空間(天下)を治める天子(皇帝)の朝廷政治が直接及ぶ範囲を「中華」、その周囲を「四夷」(東夷・北狄・西戎・南蛮)とする、いわゆる華夷思想によって構成される。

「四夷」とされた周辺諸国においても、中華文明が浸透すると、それぞれにおいてミニチュアの「小中華」意識が見られるようになった。中華文明を導入することで、自国を中心として周辺に「夷狄」を設定し、小天下を構想したのである。とはいえ、理念上、天下はひとつであって、大小の天下がいくつもあるわけではない。また、華夷秩序の中心である中国との現実的な国際関係のなかで、周辺諸国が自尊意識を肥大化させれば、中国との服属関係とのあいだで葛藤せざるをえなくなる。

ここでは、陸続きであるがゆえに中国の軍事的脅威が常に切実な問題として存在していた朝鮮を例に、その葛藤を見てみよう。朝鮮には北西部を中心とした地域に二つの建国神話がある。ひとつは、 朝鮮である。 は、周の武王のために天地の大法を説いた、儒教で聖人として扱われる人物で、『漢書』には殷が衰えた時、 は朝鮮の地に逃れ、そこで人々を教化したとされる。ほかにも『史記』などに登場するが、これらの説話において、朝鮮は儒教の本流として、中国を中心とする世界認識のなかに位置づけられている。もうひとつが高麗時代の文献『三国遺事』に初めて登場する檀君朝鮮であり、檀君は天帝の子孫で中国の堯の即位50年に国号を朝鮮と称し、その後、1500年にわたって国を治めたとされる伝説上の王である。

前4～前3世紀には、この地域に「朝鮮王」と称する首長の存在が確認されている。前221年に秦が中国を統一すると、朝鮮王の否が始皇帝に使者を送っている。

前漢が創建されたあと、戦国時代の燕王に仕えていた が前190年頃に
否の子準から国を奪い、平壤を都に新たな王朝である 朝鮮を開いた。

朝鮮は漢に朝鮮王の称号を認めてもらったが、前108年前漢の武帝は

朝鮮を滅ぼして朝鮮北部に 郡など4つの郡を設置した。

郡はその後、後漢の末期には公孫氏によって領有され、公孫氏は

郡の南部に 郡を設置したが、その後、 郡・

郡は、238年に公孫氏を討った魏の支配下におさまった。

朝鮮北部では、早くから貊族の一派が高句麗を建国し、その後、南下して313
年に 郡を滅ぼした。高句麗は、五胡十六国のひとつであって隣接する

鮮卑や、南北朝時代の北朝と抗争しながら勢力を拡大し、19代の高句麗王である

とその子の長寿王の時期に早くも最盛期を迎えた。他方、朝鮮半島の

南部では、3世紀頃から ・ ・ の諸勢力が台頭し、

その後、中国の勢力の支配から解放されると、 では4世紀に斯盧国を

中心に新羅による統一が進み、 では4世紀半ばに伯濟国が周辺諸国を

統合して百濟が建国された。 では政治的統合のない伽耶諸国が展開し

ていた。その後、南下を目指す高句麗と百濟の抗争が激しくなると、百濟は新羅

へ使者を派遣し、372年には東晋から冊封を受けた。高句麗の の碑文

は、百濟や新羅を、旧来から高句麗に朝貢する属民と位置づけており、永樂とい

う独自の年号が用いられるなど、そこには自国中心の世界認識を垣間見ることがで

きる。他方で高句麗は南北両朝にたくみに使者を送り、両朝も高句麗王を冊封し、

百濟・倭よりもはるかに高い地位に置いた。

新羅は百濟と連合して高句麗と対抗しつつ、伽耶諸国をめぐる百濟と対立を

深めていった。高麗時代、金富軾らによって完成された『 』によれば、

新羅の法興王23年(536年)にはじめて年号(建元)を立てたという。このころから

新羅は仏教をはじめ、中国の文物制度を取り入れて国家制度を整備し急速に台頭

したが、のちに新羅から唐に朝貢使節を派遣した際に、唐の年号を用いていない

ことを責められて自国の年号を廃止し、唐の永徽元年(650年)を採用した。ここ

にも、中華尊崇の意識と自尊意識との葛藤を見ることができる。

6世紀末に隋が中国を統一すると、高句麗・百濟・新羅は隋に朝貢し冊封を受

世界史

けたが、以降、三国の対立に中国が介入する大動乱期に入った。隋が滅亡すると唐に新羅がいち早く朝貢し、その後、高句麗・百済も唐から冊封を受けたが、三国の抗争は激しさを増し、唐もこれに介入していった。新羅と対立する百済を高句麗が助けると、新羅は唐に出兵を要請し、唐は645年に出兵した。唐と新羅の連合軍は660年に百済を滅ぼし、668年には高句麗を滅亡させた。新羅はその後676年(4)に唐の軍隊を朝鮮半島から駆逐して朝鮮半島の統一を成し遂げた。滅ぼされた高句麗の遺民は北に移動し、靺鞨人である [III] のもとに結集して渤海を建国した。新羅はその後、唐の文物を取り入れながらも、独自の官制を継承発展させて中央集権化が図られた。(5)

中国では、栄華を誇った唐が907年に滅亡すると、979年に宋が中国を統一するまで五代十国と呼ばれる時代になった。渤海も926年に [7] によって滅ぼされ、新羅も同時期には統制力を失っていた。その中で、開城の豪族出身であった [C] が918年(6)に高麗を建国し、935年に新羅、936年に後百済を滅ぼして朝鮮半島を統一した。(7) 朝鮮王朝時代の1451年に完成した史書『 [IV] 』によると、高麗は当初、天授という独自の年号を使用した。当時の五代十国から冊封されると、王朝交代に従ってそのたびにその王朝の年号を用い、950年に第4代の光宗がふたたび独自の年号を立てたが、963年には宋の年号乾徳を採用したという。独自の年号と中国王朝の年号を交互に使用しながら、国内では王の自称を朕とし、都の開城を皇都と称したのである。ここにも、中華尊崇意識の継続とともに、自尊意識の高まりを見ることができる。

高麗はその後、 [7] 、金、元の圧力をつぎつぎに受けた。 [7] が幾度も高麗に軍事進攻した際には、高麗は宋に使節を派遣して援軍を要請し、翌年から宋の年号を用いた。しかし、その後、宋も [7] の侵入に苦しめられたため、高麗は [7] の冊封を受け、その年号を用いたが、他方で宋との関係も維持し続けた。宋の高度な文物が高麗にもたらされ、支配層は自らを「小中華」「小華」と呼び始めた。 [7] が金の侵攻を受けて滅亡の危機に瀕すると、高麗は金の冊封を受けることになったが、他方で南宋との関係も活発で、高麗は南宋と金の年号を併記するなど苦慮し続けたのである。

問1 空欄 ～ に当てはまるもっとも適切な語句を次の選択肢から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | |
|------|----------|------|
| a 衛氏 | b 箕子 | c 羌 |
| d 匈奴 | e 玄菟 | f 辰韓 |
| g 真番 | h 西夏 | i 石氏 |
| j 帯方 | k 吐蕃 | l 馬韓 |
| m 符氏 | n 扶余(夫余) | o 弁韓 |
| p 李氏 | q 遼(契丹) | r 呂氏 |
| s 臨屯 | | |

問2 空欄 ～ に当てはまるもっとも適切な語句を次の選択肢から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | |
|--------|--------|--------|
| a 衛滿 | b 毋丘儉 | c 金庾信 |
| d 経国大典 | e 高麗史 | f 三国史記 |
| g 資治通鑑 | h 儒林外史 | i 大祚榮 |
| j 李元昊 | k 李広利 | |

問3 空欄 ～ に当てはまるもっとも適切な語句を解答欄に記述せよ。なお、 と は人物名である。

問4 下線部(1)(2)(3)に関して、①高句麗の427年以降の都、②新羅の都、③百済の最初の都の名前、として正しいものを次のア～クよりそれぞれ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | |
|----------|----------|------------|
| ア 開城(開京) | イ 漢城 | ウ 金海 |
| エ 熊津 | オ 慶州(金城) | カ 国内城(丸都城) |
| キ 泗泚 | ク 平壤 | |

世界史

問5 下線部(4)に関して、次のア～エのうち、新羅の制度・社会・文化に関する説明として誤っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。すべて正しい場合はオを選べ。

ア 王族・一般貴族・平民をいくつかの階層に分け、階層間の婚姻や就任できる官位・官職を制限する骨品制という特権的身分制度があった。

イ 新羅の青年貴族集団の統率者を花郎と呼び、多くの青年が花郎のもとに結集して武芸にはげんだ。

ウ 仏教を国教とし、751年には漢城に仏国寺が創建されるなど、すぐれた仏教建築が生まれた。

エ 7世紀後半には日本との関係も密接になり、日本に新羅の仏教文化が伝えられた。

問6 下線部(5)に関して、次のア～エのうち、渤海に関する説明として誤っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。すべて正しい場合はオを選べ。

ア 9世紀には「海東の盛国」と呼ばれた。

イ 要衝の地に五京を置いて地方を支配し、王都は上京竜泉府(東京城)に最も長いあいだ置かれた。

ウ 唐の冊封を受けない形で、唐の文物を取り入れた。

エ 新羅と外交的緊張関係が高まると、日本に使節を送って盛んに通交した。

問7 下線部(6)に関して、次のア～エのうち、五代十国時代の中国に関する説明として誤っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。すべて正しい場合はオを選べ。

- ア 唐を滅ぼした後梁は、黄巢の乱の幹部となったのちに唐に帰順して節度使となった朱全忠によって建てられた政権である。
- イ 五代の王朝は、後梁を除き、すべてが突厥系の王朝である。
- ウ 後梁、後晋、後漢、後周が都を定めたのは開封(汴州・汴京)である。
- エ 戦場となって荒廃した華北に比べ、江南は比較的平和であった。

問8 下線部(7)について、次のア～エのうち、高麗時代の文化に関する説明ではないものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 版木により『大蔵経』が木版印刷された。武人政権の崔氏が作らせた版木は海印寺に現存する。
- イ 世界最初の金属活字が作られた。
- ウ 宋の青磁に影響を受け、高麗独特の色調と技法の青磁が作られた。
- エ 朝鮮各地に世界最初の雨量計(測雨計)が配置された。

世界史

〔Ⅲ〕 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

モンゴロイド系先住民の土地であった南北アメリカ大陸は、コロンブスによる「発見」を契機として、長らくヨーロッパ諸国の植民地にされていたが、18世紀後半から次第に独立の気運が高まっていった。1783年の でイギリスに承認された北米のアメリカ合衆国独立が嚆矢となり、フランス革命やその後のナポレオン戦争でのヨーロッパ本国の混乱を背景に、現在のメキシコ以南に広がるラテンアメリカ諸国では次々と独立運動が発生した。米国はナポレオン戦争に際して中立を守っていたが、イギリスが海上封鎖をして通商を妨害したため、1812年に を起こした。その後、ウィーン体制下にあったヨーロッパ諸国はオーストリアの外相 を中心にラテンアメリカへの武力干渉をしようとしたが、米国はその干渉に反対し、1823年に を発した。

第二次世界大戦後に独立したアジア諸国の場合とは異なり、ラテンアメリカ諸国における独立運動の中心となったのは、この地域の先住民ではなかった。まず、 に位置する 領植民地のハイチ(サン=ドマング)で、 年に、世界初の黒人共和国が誕生した。その後、ポルトガル領植民地のブラジルでは、ナポレオン戦争を避けて既に南米へ避難していたポルトガル王子が、ブラジル生まれの白人の不满などを背景に、1822年に独立を宣言して帝政をしいた。ラテンアメリカの大半を占めるスペイン領植民地では、クリオーリョと呼ばれる植民地生まれの白人が独立運動を指揮した。特に活躍したのが、 生まれでチリなどを独立に導いたサン=マルティンや、 出身でコロンビアやボリビアなどを独立させたシモン=ボリバルであった。

かつてアステカやインカ等の古代文明が栄え、その後スペイン領植民地の中心となっていたメキシコやペルーでは、先住民は人口の大半を占めていた。しかしクリオーリョを中心として独立したため、大土地所有制は存続し、土地等の資本を持たない先住民は、独立国家の制度下でも下層大衆として貧困状態に留まることとなった。

一方で、貧富の格差がある形だったとはいえ、植民地化以来続く先住民、白人、黒人らの接触は、建築、絵画、音楽、料理など各方面で、独自の混雑文化へと結

実した。また19世紀後半から20世紀初頭にかけてのラテンアメリカは、欧米市場と結びつく形で経済発展した⁽¹⁾。この経済発展は、国によっては奴隷制廃止と時期が重なり、あるいは奴隷制廃止後に生じたこともあり、労働力不足をもたらした。そのため、数百万人におよぶ大規模な移民がラテンアメリカ諸国へ流入することになった⁽²⁾。日本や中国などアジアからも移民が到来した。新たな移民が社会問題と結びつくこともあったが、すでに人種的・民族的に多様になって長い年月を経た土地で、いっそう豊かなラテンアメリカ文化が形成されていった。

ラテンアメリカにおける貧富の差は、独立後も様々な形で社会を揺り動かした。メキシコでは、マデロの呼びかけによる [い] 年の武装蜂起を契機にメキシコ革命が勃発し、やがて憲法改正や農地解放も行われることになった。メキシコ革命の農民運動の指導者 [B] が暗殺されたこともあり革命は中途半端に終わったが、その理念は他国にも影響を及ぼした。移民が多かった [3] では、早くから労働組合が発達し、その支持を受けたペロン政権が各種の改革を行ったが、経済は低迷した。キューバではカストロやゲバラが中心となって1958年末から59年に [C] 政権を倒し、社会主義革命⁽⁴⁾に至った。独裁政権が続いていたニカラグアでは、1979年に [D] 民族解放戦線による革命で左翼政権が樹立され、キューバの協力もあって改革は成果をあげていたが、やがて米国の介入により失速した。チリでは、1970年にアジェンデの社会主義政権が誕生したが、[う] 年に米国の支援を受けた軍部がクーデターを起こした。

米国はしばしばラテンアメリカ諸国に干渉してきたが、とりわけ顕著なのは中米およびカリブ海地域であった。⁽⁵⁾話は少し遡るが、1898年 [イ] に勝利した米国は、キューバに対して、外交権の制限、米国の内政干渉権などを内容とする [III] を押し付け、キューバは1902年に独立を達成したものの、事実上、米国の保護国となった。[E] 大統領在任時には、中米・カリブ海諸国に対して棍棒外交とも呼ばれる武力干渉を行い、1903年に [5] からパナマを独立させた。これはパナマ運河の建設や租借権の獲得を目論んでのことであった。その後、米国はドミニカ共和国やニカラグアにも干渉していった。このような負の歴史は、ラテンアメリカ諸国における反米感情の一因となっている。

世界史

問1 空欄 ～ にあてはまるもっとも適切な語句を次の選択肢から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | |
|------------|--------------|
| a ヴェルサイユ条約 | b 十月勅令 |
| c パリ条約 | d バルフォア宣言 |
| e 反トラスト法 | f プラット条項 |
| g 門戸開放宣言 | h モンロー教書(宣言) |
| i リスボン条約 | |

問2 空欄 ～ にあてはまるもっとも適切な語句を次の選択肢から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 南北戦争
- b 米英(アメリカ=イギリス)戦争
- c 米西(アメリカ=スペイン)戦争
- d 米墨(アメリカ=メキシコ)戦争
- e ボストン茶会事件

問3 空欄 ～ にあてはまるもっとも適切な語句を次の選択肢から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | |
|----------|---------|----------|
| a アルゼンチン | b イギリス | c オランダ |
| d カリブ海 | e コロンビア | f スペイン |
| g 太平洋沖 | h チリ | i ブラジル |
| j フランス | k 米国 | l ベネズエラ |
| m ペルー | n ボリビア | o ユカタン半島 |

問4 空欄 ～ にあてはまるもっとも適切なものを次の選択肢から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | |
|--------|--------|--------|
| a 1787 | b 1804 | c 1821 |
| d 1863 | e 1898 | f 1910 |
| g 1962 | h 1973 | i 1982 |

問5 空欄 ～ にあてはまるもっとも適切な語句を次の選択肢から選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | | |
|---|----------------|---|----------|
| a | イダルゴ | b | ヴァルガス |
| c | カニング | d | サパタ |
| e | サンディニスタ | f | ジャクソン |
| g | セオドア＝ローズヴェルト | h | ソモサ |
| i | チャモロ | j | トウパク＝アマル |
| k | ノリエガ | l | バティスタ |
| m | フランクリン＝ローズヴェルト | n | マッキンリー |
| o | メッテルニヒ | | |

問6 下線部(1)に関して、次のア～エのうち、当時のラテンアメリカの経済に関する記述として誤っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア ブラジルのコーヒー、アルゼンチンの牛肉、キューバの砂糖などの単一作物の輸出に依存するモノカルチャー経済だった。
- イ ラテンアメリカからの食料や原料の対欧米輸出増加の背景には、この時期の欧米諸国の重工業化の進展による原料・食料需要の高まりがあった。
- ウ 欧米諸国のなかでも、イギリス、米国の経済的影響力が強かった。
- エ チリでは、ディアス大統領のもとで、鉱山開発などによる近代化がすすめられた。

問7 下線部(2)に関して、次のア～エのうち、この時期のラテンアメリカにもっとも多く移民を送り出した地域を一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア アフリカ
- イ オセアニア
- ウ 北米
- エ ヨーロッパ

世界史

問8 下線部(3)に関連して、次のア～エのうち、20世紀のラテンアメリカ文化の事例として誤っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア ガルシア=マルケスの小説
- イ シケイロスの壁画
- ウ ネルーダの詩
- エ ホセ=マルティの詩

問9 下線部(4)に関して、次のア～エのうち、このキューバ革命後の展開の説明として最も適切なものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア 米国内で社会主義運動に対するマッカーシー議員らによる批判が高まった。
- イ 反米的な革命政権によってキューバ国内の米国系企業が接収されると、ニクソン政権の米国はキューバと断交した。
- ウ キューバは米国による経済封鎖を受ける一方でソ連と接近し、キューバにソ連のミサイル基地が建設された。
- エ 米国主導で米州機構(OAS)を結成して、ラテンアメリカにおける社会主義運動を抑制した。

問10 下線部(5)に関して、次のア～エのうち、カリブ海の旧イギリス領植民地の国で、1983年に米国が軍事介入して左派政権が倒された事件を一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- ア エルサルバドル内戦
- イ グレナダ侵攻
- ウ パナマ侵攻
- エ フォークランド(マルビナス)紛争